

(3) 緊急時の対応

昔から水害に悩まされてきた地区であるため、緊急時の対応として、緑町自主防災会、民生委員などとの緊密な連携ができるよう、協力体制をつくり上げています。また、もばら和光苑とも緊急防災時協定を結んでいます。

(4) 支援の手順と役割を明確化

町内を5つのブロックに分け、支援の受付から実施に至るまでの手順と役割が一目瞭然に分かるような体系となっており、受付用の携帯電話（着信専用）に要請が入ると、受付担当からブロック長へ連絡し、それぞれの支援が整うような体制づくりができています。



役員の方々の声

- 買い物支援制度はあるのだが、曜日が決まっているため、自分が買い物に行きたいときに送迎バスが利用できないことが課題。
- 会を継続するためには、リーダーの存在が何よりも大事である。継続してリーダーシップを取れる人がいないと、なかなか会の運営は難しいと思われる。同時にその後継者づくりも重要である。
- 六田台や五郷地区など、4地区から同じような支援制度をつくりたいので教えてほしいという要望が出ている。同じように高齢化が進んでおり、困りごと対策だと思う。行政も他の地域への「横の広がり」を期待しているようだが、しっかりした人材がいないと難しい。最初に組織づくりを



ほほえみの会役員の方々と市民の会委員

しっかりすることが重要で、支援者間の連絡網などの組織体制が継続する秘けつではないかと思う。

- かつてのように「向こう3軒両隣」の世の中ではなく、独居老人も増えており、町内の方の「横のつながり」が少なくなってきた。このような会の目的はある意味では「見守り」に近いのではないか。公園での朝のラジオ体操もその役割を果たしている。



取材を終えて

高齢化が進む茂原の近未来の姿に見えました。およそ70%以上が高齢者のいる世帯であり、人口減少が進み、独居老人世帯が増加し、世帯は増えるが人口は減り続ける。自分のまち、町内は自分で守る…行政に全てを頼ることはもはやできないことを認識して住民たちが協力し合い、支援体制をつくりあげていく「自立のまちづくり」が必要であることを認識しました。

この会で活躍している人たちも高齢者ですが、元気な高齢者である喜びをみんなで楽しんでいる姿は好感が持て感動いたしました。

リーダーの存在と意思を同じくする人たちがいて、自立していることがいかに重要か、実感させられた1日でした。

ご意見をお寄せください！

茂原市の「自治基本条例」を考えるためには、市民の皆さんがどのようなまちのあり方を望んでいるか、その考えを取り込みながら、今後のまちづくりのためにはどのような基本原則を盛り込むべきなのかを考えていくことが必要です。ぜひ、皆様のご意見をお寄せください。

茂原市自治基本条例を考える市民の会
事務局 茂原市役所企画政策課



ケータイからもお寄せいただけます

FAX 0475-20-1603
E-mail kikaku@city.mobara.chiba.jp